

重伝建選定を目指して 歴史的街並みを照らす竹あかり

代表者 藤谷 円花 (経済学部経済学科3年)

1. 目的と概要

本事業は、多度津町の歴史的建造物が立ち並ぶ旧本町筋にて竹あかりを展示することを通して、「多度津町本町」が重要伝統的建造物保存地区に選定され、まちの活性化につなげることを目的としている。また、イベントへの参加を通して、より多くの多度津町民の方々に私たちたどつまち Labo を認知してもらうことも目的としている。

多度津町では、現在、国の文化財である重要伝統的建造物群保存地区に、「多度津町本町」の地区が選定されることを目指して取り組みを推進している。その取り組みを支援するために、「たどつ本町デー」というイベントが開催されている。このイベントの開催を通じて、地域の機運を醸成し、地域住民と共に、まちの活性化を図ること及び町内外に向けて多度津町本町の潜在的な魅力を発信することで、重伝建選定を後押しすることが目的とされている。

私たちは多度津町でプロジェクト活動を行うなかで、多度津町旧本町筋のまち並みは歴史を身近に感じられる趣のある場所だと実感している。そのため、竹あかりの光で通りを照らすことで、より魅力を引き立てることができるのではないかと考えた。

さらに、「重伝建マップ」を作成し、重要伝統的建造物群保存地区をアピールしていくことで、多度津町本通地区の伝統的な建物の保存や多度津町の活性化に貢献したいと考えた。重要伝統的建造物群保存地区に選定されるためには多度津町の住民の方々からの同意が不可欠であることから、この制度についての理解を深め、この取り組みに賛同していただくために作成した。7月から12月にかけて重伝建制度や、多度津町の伝統的な建物についての学習会に参加したり、多度津町立資料館の協力のもと多度津町の歴史について学ぶ機会を設け、この制度についての理解を深めるとともに、多度津町の魅力の再確認にも繋がるマップを作成した。

2. 実施期間（実施日）

令和7年7月1日から 令和8年3月31日まで

3. 成果の内容及びその分析・評価等

このプロジェクト事業では、季節ごとに旧本町筋で行われる「たどつ本町デー」というイベントに計4回参加し、竹あかりの展示とワークショップを開催した。イベントに参加するにあたって、事前に行われる主催者の方々とのミーティングに参加した。



また、全 3 回で実施された重伝建制度や多度津のまち並みについての勉強会への参加や、多度津町立資料館への訪問などを通して「重伝建マップ」の作成を行った。



4. この事業が本学や地域社会等に与えた影響

この事業を通じて、地域住民との交流を深め、関係を築きながら、実際に地域で学生が主体となり、プロジェクトを行うことで、香川大学の掲げる「地域に根差した学生中心の大学」という理念について、社会に認知していただくことにつながった。また、地域活性化に興味を持った行動力のある学生が多く在籍している大学であるというイメージを地域住民に持っていただくことができた。さらに、地域と大学の関わりを深めるということにもつながった。

地域社会の活性化について、イベントに参加し、竹あかりの展示やワークショップを行う過程で、地域住民と大学生のコミュニケーションの場となり、人と人とのつながりを生み出すことができた。また、旧本町筋沿いに竹あかりを展示することで、伝統的なまち並みという地域の魅力をより際立たせ、活気を作り出すことにつながった。

重伝建マップの作成については、地域住民に対して重伝建選定に向けて大学生が尽力しているというアピールになったことに加えて、地域住民の地元への思いに触れる機会となった。作成の過程で、地域住民へのインタビューや、多度津町の歴史やまち並みについて住民と一緒に学ぶ機会を経て、同じ目標に向かって進む仲間として、より強固に連携して活動ができた。

5. 自分たちの学生生活に与えた影響や効果等

このプロジェクトを行う過程で、学外者とやり取りする機会が多かったことから、社会人として必要になるマナーの学習の機会になった。また、展示やワークショップを行う過程で、子供や大人、ご高齢の方まで幅広い年代の方々との関わりが増え、社交性やコミュニケーション能力が身に付き、積極的に活動できる部分が増えた。月2回ほど多度津町を赴いていたので、多度津町への愛着が強くなり、地域活性化へのモチベーションが高まった。多度津町の伝統的なまち並みの魅力を感じ、他の地域のまち並みにも気をかけるようになり、それぞれの地域が取り組むまちづくりについて関心が湧ききっかけになった。さらに、竹あかりの展示の仕方や、ワークショップで用いるデザインを改善していく過程で、課題解決能力が育まれた。その際、メンバーで案を出し合い、物事を決定する過程はグループディスカッションの機会になり、協調性や団結力、決断力や表現力が生まれ、大変有意義な機会となった。

6. 反省点・今後の展望（計画）・感想等

今後の課題としては、2点あげることができる。1点目は竹あかりワークショップについて、イベント内容のマンネリ化が進み、参加者数が減少傾向にあることである。目を引くデザインや季節に合わせた型紙を作成したり、呼び込み方法を工夫したりするなどして対応していく必要がある。2点目は展示で使用している竹あかりが割れたり、古くなったりして使えなくなっていることである。新たに竹を伐採し、展示で使用できる竹あかりを増やしていく必要がある。使えなくなった竹は捨ててしまうのではなく、竹炭やそれ以外の活用方法を見出していきたい。

この活動を通して、メンバー自身も多度津町のまち並みの魅力を再確認できる機会になった。今年度は多度津町本町地区が重要伝統的建造物群保存地区に選定されることはかなわなかったが、来年度からも挑戦と改善を繰り返しながら、この活動を継続していきたい。

7. 実施メンバー

代表者	藤谷 円花（経済学部3年）	
構成員	入口 莉帆（経済学部4年）	石井 心（経済学部4年）
	松本 奈珠（経済学部4年）	赤川 颯（経済学部3年）
	齋藤 美喜（経済学部3年）	藤田 倫太郎（経済学部3年）
	古川 華（経済学部3年）	宮川 由梨乃（経済学部3年）
	三好 真路（経済学部3年）	八杉 陽菜（経済学部3年）
	田中 裕久（法学部3年）	山本 凌平（法学部3年）
	坂本 諒也（農学部3年）	玉置 渉（農学部3年）
	藤田 源紀（農学部3年）	宮下 翔伍（創造工学部3年）
	浅野 仁美（経済学部2年）	伊藤 太樹（経済学部2年）

塩谷 真滉 (経済学部 2年)	桧垣 美佑 (経済学部 2年)
米本 愛袈 (経済学部 2年)	栗原 健 (創造工学部 2年)
中谷 美佑 (創造工学部 2年)	堀川 史珠葉 (創造工学部 2年)
上野 葉月 (教育学部 2年)	田中 こひな (教育学部 2年)
馬谷 美好 (教育学部 2年)	加賀田 ハル (農学部 2年)
加藤 沙織 (農学部 2年)	山中 匠青 (法学部 2年)
大山 璃乃 (経済学部 1年)	川原 里菜 (経済学部 1年)
武内 優奈 (経済学部 1年)	大池 真由 (法学部 1年)
山田 晃生 (法学部 1年)	中川 綾菜 (創造工学部 1年)
西村 美月 (創造工学部 1年)	藤枝 秀大 (創造工学部 1年)
松田 絢 (創造工学部 1年)	吉田 茉生 (創造工学部 1年)
平田 ひより (教育学部 1年)	枘谷 結奈 (教育学部 1年)
宮澤 瑠莉奈 (経済学部 1年)	

8. 執行経費内訳書

配分予算額		196,374円		
執行経費(品目等)	数量	単価(円)	金額(円)	備考
旅費(JR 高松-多度津)			73,340	8/7, 8/23, 9/25, 10/26, 11/1, 11/2, 11/3, 11/30, 12/13 2/14, 2/16, 2/22, 3/17
物品(リーフレットデザイン費)	1	44,000	44,000	
物品(リーフレット印刷費)	800	24.75	19,800	
物品(キャンドルライト)	120	74.7	8,961	
物品(ガーデンライト)	10	1,069	10,698	
物品(ランタンライト)	5	1,033	5,165	
物品(スティック掃除機)	1	5,998	5,998	
物品(電動ドリル)	1	11,988	11,988	
物品(投光器)	2	2,719	5,438	
物品(竹用ドリルビット)	5	755	3,775	
物品(ほうきちりとり)	1	2,124	2,124	
合 計			191,287	